

四街道市予防接種健康被害調査委員会会議録

平成24年2月27日（月）午後1時30分～2時30分

開会

健康福祉部長挨拶（佐藤部長）

会長・副会長選出

会長に石橋守正委員・副会長に渡邊博子委員を決定

会長挨拶(石橋守正委員)

議事

議題1 平成22年度予防接種事業実績及び23年度進捗状況報告 資料1(P1～3)：事務局

① 22年度予防接種事業実績（P1）

② 23年度進捗状況報告（P2～4）

- ・平成24年1月31日時点での各予防接種の接種率を報告（定期接種・子宮頸がん等ワクチン）。
- ・BCG未接種者へ毎月電話勧奨。二種混合、MR、ポリオの未接種者へはハガキによる個別の接種勧奨を1月～2月に実施。
- ・2種混合については毎月勧奨をしているが横ばい。
- ・各年齢による完了状況（乳幼児・児童生徒）。MR4期（高2）の希望者は約100名あり。

③ 23年度高齢者インフルエンザ予防接種実施報告（P5）

- ・接種率55.2%。（H22接種率）
- ・10月ワクチン不足あり、11月の接種が多く見られた。
- ・生活保護の方の接種が増加。
- ・今年度は季節性インフルエンザとして接種期間が23年12月31日まで。
- ・副反応の報告は1件のみ（悪寒）

質疑応答

渡辺委員：接種率が100%を超えている。日本脳炎については受けていなかった人も多数いるためとは考えるが、対象者の考え方は？

事務局：日本脳炎1期初回の対象はH23年10月1日現在3歳の者、一学年分の人数相当になっている。未接種者の接種再開に伴い1000人規模を超える接種があったため接種率は高くなる。年齢別完了状況が現状に近いデータだが、転入前に接種されてきた接種歴も含まれるため必ずしも四街道市での接種のみでない。また、接種歴を届け出していない方は未接種者としてカウントしてしまう。

一戸委員：全国的に、どこの時点で誰が受けているかは不明。厚労省では便宜上人口で接種数を割る形で求めているため報告の部分は致し方ない。自治体独自で接種率等評価できるシステムを今後検討してみるとよろしいのではないか。

柴田委員：高齢者インフルエンザはワクチン流通が途中少なくなり、受けられない状況があった。その点についてはいかがか？

事務局：県からは流通の数的には不足はないとの情報であった。医療機関によって在庫状況に差があったようだが、接種期間の延長は必要ないと判断した。市民からの問い合わせに対しては、把握する接種可能な病院をその都度紹介した。

柴田委員：不活化ポリオについて市民からの問い合わせはどうか？

事務局：どちらがよいかを迷う保護者・不活化をするために医療機関を問い合わせる保護者とあり。件数的には報道後に増加の後は沈静化している。

石橋委員：聞かれた時はどのように説明している？やっている病院は？

事務局：近隣では成田市のなのはなクリニック・聖隷佐倉市民病院・八街こどもクリニックが実施。現段階では任意接種であること、救済制度の違い、メリット・デメリット等を伝えた上で保護者が納得して実施すること、予防接種そのものを控えることはお勧めしないことも申し添えている。

一戸委員：次年度は不活化ポリオの接種率も考慮した上で接種状況を評価する必要がある。接種歴を何らかの方法で把握するシステムの検討を。

柴委員：そうですね。医師会でも相当数接種されている様子を聞いている。

事務局：おそらく定期接種導入にあたり、どう接種歴を考慮するのか等が決まった時点で、周知方法とあわせ把握方法も検討することになると考えている。

議題2 予防接種後の身体的反応出現状況報告 資料2（P1～3）：事務局

22年度、23年度の身体的反応出現状況報告（P1・2）

- ・H23からは子宮頸がん等ワクチンを追加して報告（その他：腹痛・鼻汁・だるさ等）。
- ・厚生省への報告があったものが2件。いずれも軽快。

質疑応答

柴田委員：子宮頸がん予防ワクチンでは失神例が全国で440例の報告があるというが、市内での報告はどうか？軽微なものを含めると多くあるのか？

事務局：市内で報告はない。メーカーや厚労省からも注意喚起および調査協力の依頼があり、各医療機関へ情報提供したところ。

議題3 平成24年度予防接種実施計画（案）について 資料3：事務局

質疑応答：特になし

議題4 その他

一戸委員：ワクチンの種類の増加で接種間隔の問題・ワクチンの間違い等の問題が増えたのではないかと思うが実際はいかがか？

事務局：多数ではないが、子宮頸がんワクチンについて助成期間内に終了させようとの善意で間隔を短めにしていた事例があった。助成期間の延長も検討していたので、病院へは適切な間隔で接種をしていただけるよう伝えた。乳児では、ヒブ・肺炎球菌・3種混合を単体で実施していると、予約の段階で種類を間違い、訂正されるという話を聞いている。

一戸委員：四街道市内の同時接種の実施状況はいかがか？

石橋委員：やっている医師とやってない医師と混在。

渡辺委員：4月に見合わせがあったときに一時ためらったが、その後だいぶ実施されるようにはなったと思う。ロタも入り種類が多く、やはり必要と考える。

石橋委員：四街道市では保護者の希望がなければ無理にはすすめないということになっている。

渡辺委員：基礎疾患があると保護者がためらうことが多い。

石橋委員：同時接種について四街道市で今後決めていくようなことはあるか？

事務局：医学的に先生方からのご意見等を伺いたい。

渡辺委員：心疾患等ある方については慎重に、保護者の希望がなければやらないが、重度心身障害児のお子さんも同時でやっており実際問題はないと思う。必要性も感じる。

事務局：スケジュールが詰まっていくことで、BCG 接種が遅れる傾向が出てきている。ガイドライン上は必要性・医師の判断でとなっておりそれ以上の取り決めに市が行うことは難しい。

渡辺委員：スタート時よりも保護者の不安は減っている印象を持つ。

一戸委員：小児科学会でモデルスケジュールを出している。医師会での利用は？

渡辺委員：小児科医会では活用していると思う。

柴田委員：昨年小児科学会から予防接種の専門の講師を招いて同時接種について講演会を企画した。できれば同時接種を進めていく方向という内容であった。今後どの程度浸透してゆくかは見守り段階か。

石橋委員：接種をする医師の不安を無くしていく必要があるのではないか。

一戸委員：小児科学会ではこのようにすすめているといったことを示していくしかない。

石橋委員：徐々に浸透を待つしかない。無理強いは最も良くない。 → 委員の同意

柴田委員：インフルエンザワクチンについて今年接種量に変更されたがどのような背景が？

一戸委員：日本では詳細に年齢を区分していたが、接種量が少ない代わりに効果も少なかったため、国際的基準に準拠することになったということ。

石橋委員：その他、新しいワクチンの情報等はいかがか？

一戸委員：ヒブ等に加え、B 型肝炎・ロタをどのような形で入れてゆくかということについて厚労省で検討している。

閉会